

令和5年度 第2回 四万十町地域公共交通会議 議事録

●開催日時：令和5年12月19日（火）15：10～16：00

●会場：四万十町役場本庁東庁舎 地域交流センター 多目的大ホール

●出席委員：8名

森武士（四万十町 副町長）

山本圭（国土交通省四国運輸局高知運輸支局 総務・企画観光部門 首席運輸企画専門官）

宮野広至（国土交通省四国運輸局高知運輸支局 輸送・監査部門 首席運輸企画専門官）

吉岡真佐人（株式会社四万十交通 代表取締役）

三浦ひろみ（有限会社丸三ハイヤー 専務取締役）

國元豊美（窪川地区代表）

津野修三（大正地区代表）

谷崎直子（十和地区代表）

■欠席委員

別府慶一（高知県中山間振興・交通部交通運輸政策課 課長）

■事務局等

中川貴之、柴優樹、久保田啓嗣（四万十町 企画課）

北村耕助、真城和也（四万十町 大正振興局地域振興課）

富田努（四万十町 十和地域振興局地域振興課）

土居貴之、橋詰昌武（アドバイザー：合同会社えこ・まち研究室）

1. 開会

(1) 会長挨拶

2. 協議事項

【事務局から資料1「大正北部地区の路線バス再編方針について」を説明】

（省略）

【事務局から補足説明】

（土居アドバイザー）

大正北部路線の再編においては6、7年前から地域と話をしており、実証運行をやりとうという状態であったが、コロナ禍が始まってからは地域に入ることができていない状況であったものをこの度再度進めていこうということになった。下津井線と中津川線は朝昼晩の3往復しか動いていない。朝は早すぎるため診療所なども開いていない。昼の便に乗って夕方の方の便で帰るしかないということ言われていたのを記憶している。買い物だけでちょっと出かけても帰って来られるような便がないかといった要望があった。それを実現するた

めには便数を増やさなければならない。便数を増やすためにはどうすればよいかというところで、四万十交通大正営業所とも話し、できているのがこの案。1日の便数は増えているが、運行する日数は減る。ただし、大奈路と大正駅の間は月曜日から金曜日まで同じ時間で運行するというのを今のところ考えている。

【質疑応答及び意見の提示】

(國元委員)

この区間は通学する学生がいないということか。

(事務局：北村大正振興局長)

高校生はいる。大奈路地区の高校生は通常、自転車や保護者の送迎で通学している。雨の日で保護者が送迎できない時などはバスを利用している状況。

下津井は月曜日と木曜日、中津川は火曜日と金曜日、既存の下道線が水曜日。基本的にコミュニティバスは週1日の運行であるが、大奈路から大正まで一般の人で毎日利用されている人がいる。現在も大奈路と大正区間を午前10時台に毎日走っている便があるが、それを毎日使っている。路線バスからコミュニティバスに切り替わったとしても毎日使う人がいるということと、毎日ではないが学生もいるということで、使える状況にはしなければならないという考えで3月からの実証運行を考えている。

(山本委員)

実証運行を行う事業者はどこか。また地元のタクシー事業者に影響がないか話をしているか。無料でするため利用が集中すると思うが。

(事務局：北村大正地域振興局長)

路線バス下津井線と中津川線については四万十交通が運行している。コミュニティバス実証運行も四万十交通大正営業所をお願いをし、事前に打ち合わせを行っている。

タクシー会社については以前丸三ハイヤーが営業していたが、現在大正エリア内にタクシー会社はないため競合はない。

(津野委員)

実証期間中は運賃無料とのことだが、本格運行の際、運賃はどれ程になるのか。

(事務局)

コミュニティバスの運賃については、これまで公共交通会議で諮り100円運賃設定をしている。全町統一して設定しているため、今回も100円を想定している。

(津野委員)

福祉タクシーバス利用券は使えるか。

(事務局)

使える。

(國元委員)

毎日運行しているものが週1、2回になる。お金がかかってもよいので、路線バスの方が良いという意見はないか。

(事務局：北村大正地域振興局長)

下津井と中津川については、以前は下津井集落から振動病の人が毎日使っていたが、現在は治療をやめている。現在は毎日使う人はいない状況。5、6年前から聞き取り等を行った中では、毎日使う状況でなければ、コミュニティバスに切り替えることもやむを得ないだろうという意見を地域の人からもいただいている。毎日使えなくなるが運賃は安くなる。そういったことを含めて理解をいただいている。

下津井線が月曜日のみ、下道線が水曜日、中津川線が金曜日のみになった場合、火・木曜日が利用できない日となる。大奈路から毎日利用している人がいるため、そういう事態に陥らないようにしなければならないということで週2回の考えになった。

(会長)

2ページにあるように実証運行期間中に地区意見交換会を引き続き実施し、可能な限り調整を行うということなので、地域の人に配慮して対応していきたいと考えている。

【採決】 異議なし。承認。

【事務局から資料2「下道線西ノ川地区内の運行経路変更について」、資料3「古城線山瀬地区内の運行経路変更について」を説明】

(省略)

【質疑応答及び意見の提示】

(会長)

運行変更日が2つとも違う(下道線R6年3月6日変更、古城線R6年2月2日変更)が、利便性の向上のためならば、下道線の変更時期をもう少し早くできないのか。

(土居アドバイザー)

西ノ川は新規の経路であるため、運輸局における手続きの期間が異なるためである。

(谷崎委員)

西ノ川の方は喜んでいらっしゃると思う。このことをずっと望んでいた。

十和の追和は変わりなく運行し、山瀬が運行しなくなるのか。

(事務局：富田十和振興局長)

山瀬に入ってから分岐があり、そこまでは運行する。

(國元委員)

西ノ川の休止区間に人は住んでいないのか。

(事務局：北村大正地域振興局長)

休止区間の途中には家はない。新規経路との合流地点には家がある。新規区間は路線バスでは少し幅員が狭いが、コミュニティバスでは十分運行可能。

【採決】 異議なし。承認。

【事務局から資料4「四万十町生活交通確保維持改善事業に関する事業評価について」を説明】

(省略)

【質疑応答及び意見の提示】

(会長)

利用者懇談会を含めて事業は適切に実施している。目標設定についても7つのうち4つはクリアできており、目標値の見直しもこれから改善も含め考えているということ。予土線については高知県と愛媛県の利用促進対策協議会が一緒になったということで、愛媛県と歩調を合わせて取り組んでいくということ。特に問題ないとのことによろしいか。

【採決】 異議なし。承認。

3. その他

(津野委員)

他の地域であるが、先日テレビ番組で、運転手不足で仕事があっても、バスを動かさないということを報道していた。便数を増やすことは運転手に負担があるのではないか。時間外労働についても制限される。四万十交通は心配ないか。

(吉岡委員)

運転手もだが、事務も張り付いている職員がいるのみで、総務、経理また路線事業のことも後継者を構えていかないといけない。事務所に入ってきてくれる人も全くいない状態。これから3年先は、貸し切りバスをやらなければ路線バスを継続できるといった状態。事務所に人が入らないことについては不安。ハローワークや高知県にも求人の募集をしており、東京など広く求人をしているところにも2社お願いをしている。今は体制を維持できるが3年後にはどうなるんだろうという不安はある。

(津野委員)

運転手を増やすには賃金を上げれば良いのでは。

(吉岡委員)

ハローワークでは初任給が高い方。安いところは安い。しかし、賃金が高いことと人が入るかどうかは結びついていない気がする。

(津野委員)

よさこいに多くのバスが出ているが、四万十交通は出ているのか。

(吉岡委員)

毎年の行事なので、すでに来年の予定には入れている。

バスを処分したとか、運転手が少ないので無理ということでお断りする件は出てきていた。

(三浦委員)

後継の人材を育てていかなければならないが、余裕がない。夜間タクシー営業をしなくなったことで今の運転手が仕事をしやすくなったと仕事を続けてくれている人もいる。いつまで続けてくれるかは分からないので若い人を育てたい気持ちはあるが、なかなか入ってくる人はいない。拘束される時間が通常の仕事より長いところもあるかもしれない。かといって誰でもよいわけではない。次の人が辞めた時にどうしていくか不安。若い人が入ってもよい給料は出せない。年金生活の人が生きがいとして来てくれるようになればと考えている。

今のところは安全第一で運行しつつ、来てくれそうな人がいれば働きかけながら、現状を維持していきたいと考えている。

(谷崎委員)

利用者懇談会では利用者の生の声を聞いてもらったことがよかった。今後も実施してもらいたい。乗り物同士の接続については JR とバスがうまくいっていないところもあり、何とかしてほしいという意見がある。予土線の窪川駅 10:43 発～土佐昭和駅 11:46 着はバスが5分前に出てしまっているので、何とか接続の方法を考えてほしい。

待合所の件はコミュニティバスの待合の時間を有意義に過ごせるような場所ができないか。コミュニティの場としてよいのではないかと思う。昭和地区については空き家を貸していただいてベンチを国沢組に設置してもらっているがあまり利用されていない。理由としては待合所の表示がないため使いにくいとのこと。ベンチの設置などは良心的にしているので大変ありがたい。

地吉・古城地区の人と話すと、みよしやの前(十川橋バス停)にベンチが欲しいという意見がある。何とか急いで作ってもらいたい。

公共交通を町外から来た人に利用してもらうようなことができないか。ホビー館は先日予土線の活性化のため四万十ヒノキを使ったベンチを構えたりしていたと思う。町内地域ごとに様々な観光資源が数多くあるため、そういったところに対して公共交通を利用してもらえるよう町として考えられないか。以前四万十にちなんで 40010 本の桜の木を植えるという活動をしたことがあった。北幡建設の社長が発端だったが、そういった観光と公共交通をつなげられる活動を行っていけないか。

(事務局：富田十和振興局長)

予土線とコミュニティバスの接続について、どうしても何かに合わせるとどちらかに合わなくなるというのが現状。現在は診療所の利用者をメインにダイヤを合わせているため、JR の利用者に合わせられないという現状になっているのではないかと。皆さんに意見を聞きながらその路線としてどこに重きを置くかということが、ダイヤ設定においては重要になってくる。十和のコミュニティバスは毎年のように見直しをしているので、利用者のニーズが変わればその都度検討していきたいと考えている。

待合場所のサロンのような利用については、「喫茶清流」や「ロマン」は現在も使われている。遊休施設の活用は以前実施したことがある。松原の自転車屋が使われなくなったとき、場所を借りてベンチの設置、冬季にはストーブの設置、また時刻表の掲示等を行ったうえで利用をお願いしたが、建物の中に入り込んで待つということに抵抗があるのか、あまり利用してもらえなかった。現状で喫茶店を利用してもらっている人もいるため、引き続きお願いをしていく。十川の中心部は JA の空き地もあるため、検討していきたいと考えている。

昭和の待合所の話については、車庫を貸していただいて、国沢組にベンチを提供いただい

ている。町としても感謝をしたい。バス停標柱が設置されていないので、利用しにくいのではないかと思う。近くにあるようだったら手続きをして移動できないのか協議をしていきたい。

十川橋の待合所のニーズが非常に多いと認識している。十川橋は県道であり、十川橋バス停はそこに隣接したものである。ただし十川橋は共用を開始して90年経っており、令和7年から4年かけて橋の架け替え工事が始まる。架け替え工事期間中はバス路線も大きく変更せざるを得ない。今待合所を作っても一度壊さないといけなくなってしまうという状況。現状として困っている人がいるというのは事実なので、ベンチを置けないか等、今できることを一つ実施しようと考えている。併せて、経路が変わる4年間をどうするか、県土木も交え協議をしている。例えば国道側の手すりを一部のけて仮設の待合所ができないかといった話をしているところ。

町外の人に公共交通を使ってもらおうという話については、現状の公共交通は観光路線というよりは生活路線である。実質十和ではほとんどの路線がコミュニティバスであり、週に1日しか走っていない状況。それが観光客に利用するうえではどうなのかといった話でもある。こいのぼりの川渡しや川遊びの時期など、ハイシーズンには臨時便を走らせる等、観光視点で検討の余地はあると考えている。

(会長)

モマベンチは隈研吾がデザインしたもの。きっかけとしては前愛媛県副知事。民間サイドの利用促進について官民一緒にやろうという思いを持っている方で、そこに愛媛県庁が一緒になって取り組んでいる。

町内の人にも予土線と2次交通としての路線バス、コミュニティバスに乗ってもらえるような仕掛け、イベントをこれからしていきたいと考えている。

(事務局：中川)

主要な施設には、見やすい時刻表情報冊子を置いている。役場にも取りに来ている人もいるため、これからこういったものを充実させていきたい。今回の公共交通計画にも観光と公共交通網の連携も謳っているため、今後検討していきたい。

(國元委員)

路線の変更についてはどういったところからの要望か。住民からか。

(事務局)

今年度については主に8月に利用者懇談会と意見交換会を実施している。その中で経路の変更やダイヤの変更についての要望をいただいている。それをすべて反映させるということはず、交通事業者と現地の調査を行い、バス車両が通れるのか、運転手の始業の確認

等を行ったうえで、問題なければ変更するといった手続きを踏んでいる。

(國元委員)

情報の収集の仕方はどうか。そういった場があればよいが、日々の生活の中で要望をした人はいると思う。どこに言ってよいのかわからない人もいるのではないか。情報の収集の仕方としては区長さんや民生委員に聞く等あると思うが、そういった情報を共有できるようなところがあればよいと思う。

(事務局)

すでに仕舞会をしたところがあると思うが、一部の路線について、利用者が少ない路線があったことから、調査の前段としてその地区に実際乗っている人がいれば、今回の仕舞会の場で意見を聞いてほしいといったお願いを区長にしている。そういったところから情報を仕入れて今後再編について検討していきたい。十和大正の振興局にも公共交通担当はいるため、企画課や十和大正地域振興局にお問い合わせいただければ、ご意見を聞いたうえで検討をさせていただく。

【閉会】

(事務局アナウンス)

今回の会資料については、いくつか修正があるため後日お送りさせていただく。